

荒川放水路建設に貢献した人々の思い

所在地：千住元町 33-4 元宿神社



かんきゅうひ
感旧碑



故地を去る愛慕の情

先祖代々の「故地」に対する「愛慕の情」が碑に刻まれています。



濃い青色が荒川放水路
(掘削された人工河川)

■ 荒川放水路とは？

元宿神社に立っている「感旧碑」(感旧:昔のことを思い出すこと)と刻まれた石碑は、荒川放水路建設に関係する文化財です。荒川放水路は、明治43年(1910)の大水害(文化財豆知識参照)をきっかけに建設計画が立てられた人工河川で、広範囲にわたる用地買収が行われ、昭和5年(1930)に全ての工事が完了しました。

■ 先祖代々およそ400年住んだ土地を去る

感旧碑は、用地買収を受けた鈴木與吉よきち氏が大正5年(1916)に建てた碑です。鈴木氏は、天正2年(1574)に先祖が建てた神社の流れをひく元宿神社に感旧碑を建て、荒川放水路建設という「公」のために土地を去ることになった経緯を碑に刻みました。鈴木氏が住んでいた場所は、現在の西新井橋付近、荒川放水路の底に沈んでいます。

水害が頻発する現代を生きる我々は、荒川放水路の多大な恩恵を受けています。鈴木氏をはじめとする「故地」を去った多くの人々への感謝を忘れることはできません。

文化財豆知識 明治43年の大水害

明治43年8月、2つの台風が重なり、関東・甲信越・東北地方の太平洋岸を中心に猛威をふるい、河川がいたるところで決壊しました。濁流が各地を襲い、現足立区内全域も被害にあいました。東京府だけでも150万人以上が罹災し、死者45人・行方不明者7人の犠牲者をだしました。全国あわせると死者1231人・行方不明者1266人もの尊い命が奪われました。こうした被害を繰り返さないように荒川放水路の建設が決定されたのです。



水につかった千住五丁目